

## 2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 立命館守山中学校・高等学校 ] 担当教諭名 [ 吉本 恵子 ・ 菊池 恵 ] (中学高校美術部 28名)  
 相手国・地域 [ ルーマニア ]  
 海外学校名 [ Liceul de Arte Plastice Timișoara ] 担当教諭名 [ Eugenia Dragoi-Banciu ]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	美術部	部活動・アートマイルプロジェクト	約50

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	環境問題 「私たちが未来に向けてできることは何か」
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	LOVE OUR NATURE LOVE OUR EARTH LOVE OURSELVES



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
ICT を活用することで、遠く離れた国の同世代と議論をしたり、交流することができる。さらに、地域や文化が違ってても未来に向かって何かしなければならないという思いは同じである。ということに生徒たちが気が付いた。	初めて参加される学校でしたので、なかなか議論を深めることができなかった。作品は芸術コースの学校であったので、デザインなど意思疎通もはかれ、うまくまとまった構図の作品に仕上がったと思います。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
生徒たちにとって、ルーマニアは全く知らない国で、異文化を理解することができた。生徒たちは積極的に交流し、情報を発信しようとした。環境問題について議論し、同じ年代のグレッタさんの話題などを共有したり、国は違ってても環境に対する考えは同じであると理解した。	相手校と生徒を早く交流させようと始めたが、なかなか進まなかった。しかし、作品を手掛け始め、交流を深めるうちに自主的に交流を楽しむようになった。何かさせるより子どもの自主性を引き出すことに集中するようになった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月 ～ 9月	・ルーマニアについての調べ学習・ 発表展示 ・生徒同士が自己紹介カードや動画 を使用し、自己紹介、学校紹介。	・ルーマニアについて何も知らなかつ たことに驚いていた。 ・ルーマニアの生徒たちが、自分たちと 同じ感覚を持っていることに驚いていた。	美術部
共有 テーマ学習	9月	・SDGs のテーマを参考にしながら、 個々の生徒が、私たちが抱えて いる問題についてテーマを設定し、 意見をカードにして議論し合 った。	・相手校が一人一人環境についての 作品を描いて見せてくれた作品に驚 いていた。環境について自分たちが 当事者として積極的に意識を高める 必要があると気がついた。	美術部
融合 メッセージ作成	10月	・描くテーマやデザインについてフォ ーラムで事前に議論した後、Skype で確認や交流を深めた。	・Skype で時間を共有すると、相手国と の交流に実感がわき、制作への意欲 や、もっと交流を深めたいという意欲 がわいてきた。	美術部
創造 壁画制作	11月	・小さい紙に下書きをし、その下書き を全員で共有しながら壁画を完成さ せた。途中経過はその都度相手国 に確認しながら進めた。 ・飛び出すカードを一人ひとりメッセ ージを書いて同封し、送付した。	作品制作はスムーズに進んだ。一つ のイメージや描く技法を全員で共有し ながら分業ですすめた。他の人にもア ドバイスしながら全体に作品を仕上 げ、協働していることを実感していた。	美術部
評価 振り返り 自己評価	2月	・完成した作品や同封されていたメッ セージカードを鑑賞。 ・自分たちの作品に込めたメッセー ジや意味と説明しあった。	・自分たちの作品にうまく融合するよう に描かれた完成作品に驚くとともに、 相手国の技術や想像力に驚いていた。	美術部

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてついった 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	作品のデザイン考えるときに、現代の日本環境をどのように表現可能かを議論した。日本の守るべき自然と現代の自分たちの生活文化や意識を議論する必要がでてきたから。
異文化を理解する力	4	共同で作品を手掛けることをきっかけに相手の国の様々なことを理解しようとした。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	5	本校は一人一台 iPad を持っており、ICT 活用能力は高い。さらに活用方法の幅を広げることができた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	自分自身の意見をカードにして交流することで、もっと相手の意見を聞いてみたいと思うようになった。文法よりも伝えようとする気持ちが大切だと感じていた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	意見交流する中で、自分の意見も発信していたが、調べ学習や相手の意見をそのまま受け入れることが多く、批判的に思考するまではなかなか難しかった。
主体的に考え行動する力	4	交流の仕方や、表現について自分たちで考えて行動していた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	一つの作品を完成させるために、描くモチーフや色彩、デザイン、テーマを校内・相手校とも共有し、議論しながら進める必要があった。しっかり議論するとスムーズに協働し制作が進められた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	日本側がデザインはリードしてすすめ、相手国は私たちにうまく融合したデザインを描いた。美術部とアートクラスの生徒だったのでスムーズに表現できた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	5	同じ年代の相手国の生徒たちの反応の速さや、主体性、意識の高さを目の当たりにし、自分たちはどうなのかという思いで個々が振り返っていた。完成作品が返ってきたときは、想像以上の完成度や相手国の技術の高さに驚いていた。日本人同士では想像できるが、海外の生徒がどのように考えたり作品を創造するかは生徒たちにとっては未知の領域で、海外の生徒と交流するからこそ自分たちを振り返ることができたと思う。